

YMCA News



第3回 盛岡YMCA大会



震災から12年



こんにちは!りりんです。震災から12年が経ち、当時小学3年生だった私も、もうすぐ大学4年生、リーダーを始めてから3年目になろうとしています。私は沿岸の宮古市出身ですが、家や家族に大きな被害はありませんでした。小学校の防災教育の一環として何度も地震や津波について教えてもらっていましたが、当時の私は津波の怖さすら十分に理解できませんでした。もしあの時1人だったら避難もしていなかったと思います。たまたま学校にいて助かったのです。震災の被害の大きさ、残酷さを感じ始めたのは、恥ずかしながらここ数年のことです。そんな鈍感な私でも、学校生活が大きく変わったことは実感しました。通学路には瓦礫が重なり、体育館は避難所になりました。校庭には仮設のお風呂が設置されました。制限や不自由も様々あったと思います。

しかし、それと同時に多くの方が支援をしてくださりました。YMCAもそのひとつです。私は小学生の時、震災支援のスキーキャンプに参加しました。スキーもキャンプも初めてでしたが、とても楽

しかったことを覚えています。特にリーダーたちが楽しそうに活動していたのが印象的でした。「もしかして私たちが寝ている夜の時間も楽しく遊んでいるのかも」とうらやましく思っていました。大学に入り、ボランティアリーダーについて聞いた時、「あの楽しそうに遊んでいた人たちか!」とすぐに思い出しました。私もリーダーの仲間入りができるのだとワクワクしました。

今こうしてリーダーとしての活動を続けているのはあの時のキャンプがあったからだと思います。あの時、スキーキャンプを開催してください、本当にありがとうございました。ご縁に恵まれたこと、うれしく思います。きっと私のようにYMCAでの体験が将来よい思い出となる子どもたちもたくさんいることと思います。そんな素敵な活動にたくさん関わりたいです。また、宮古市をはじめ沿岸地域でも楽しいことができたらと思っています。

岩手大学人文社会学部4年 長澤実花(りりんリーダー)

盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切にし、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

【活動報告】ちきゅうと、あそぼう。



こんにちは!! 岩手大学3年のシャベルです!! 2月のちきゅうと、あそぼう。野外活動クラブは、2月26日(日)花巻スポーツランドに、元気いっぱいの子もたち35人、個性豊かなリーダー17人、笑顔が素敵なスタッフ2人の計54人で活動してきました。

私たちが訪れた花巻スポーツランドでは様々な雪上体験をすることができ、子どもたちの目はキラキラと輝いていました。木々の間につながれたロープの上を、リーダーの肩を借りながら綱渡りのようにバランスをとって渡ってみたり、トラクターに引っ張ってもらったり、椅子取りゲームのように「そりとりゲーム」をしたり、普段の生活では体験できない活動にワクワクが止まらない様子でした。

特にスノーモービルの後ろにつな

がれたそりに乗ったときには、そのスピードとスリルに大興奮していました。みんな怖がることなく、「もっとやりたい!」「今までで一番面白い!」と大満足の笑顔を見せてくれました。今回、大自然の中に放たれた子どもたちは、様々な体験の中で思い思いにチャレンジし、一人一人が挑戦しながら楽しんでいたように思います。その気づきと体験を友達や兄弟に伝えたい、分かち合いたいという子どもたちの姿はまさに「みつかる。つながる。よくなっていく。」を体現しており、これから様々な人との関係を築いていくうえで、大切な事を私自身も学ぶことができました。私たちリーダーも共に学び成長していく存在としてこれからも頑張っていきたいと思えます。



岩手大学 藤根奈実子 (シャベルリーダー)

【活動報告】サンデースクール



3月サンデースクールは、「エコおしゃれな!リメイクポーチ作り!」を3月19日(日)に向中野センターで開催しました。参加人数は子ども18名・リーダー17名の計35名でした。

ミーティング準備の段階では、「大満足!世界に1つだけのポーチが作れるサンデー!」を目標に掲げて取り組みました。今回は試作の段階からポーチ作りの難しさを感じていました。子どもたちには難しさではなく、一緒にポーチを作る楽しさを感じてもらいたかったため、わかりやすい作り方の動画と説明書を作成しました。

当日は、アイスブレイクで「総合合わせゲーム」をして楽しみながら緊張をほぐしました。その後、子どもたちはポーチの作り方動画を参考にして、すてきなポーチをリーダーと作っていま



した。幼児から小学6年生の子まで、全員が時間内にリメイクポーチを完成させることが出来ました。

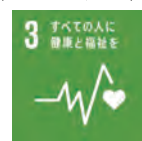
そして発表会では、自分の作ったポーチをみんなに褒められ、子どもたちの笑顔があふれていました。子どもたちは帰る時まで、友達やリーダーと遊んで月に一度のサンデースクールを楽しんでいました。

先月に引き続きサンデースクールでは、メインリーダーを務めさせていただきましたが、子どもたちと楽しいを共有するために、入念な準備をしてきたリーダーたちの頑張りが見えました。これからもYMCAの活動に参加してくれる子どもたちに「次も行きたい」と思ってもらえるように全員で頑張ります。



岩手県立大学 加藤 瑞基 (DDリーダー)

【活動報告】スプリングサッカー大会



3月12日(日)、浜民運動公園総合体育館でスプリングサッカー大会が開催されました。当日は29人の子ども達、28人のリーダー・スタッフが参加をしました。また、子ども達だけでなく、保護者の方々にも参加・観覧を頂き、とても活気あふれる大会となりました。

今回のサッカー大会では、冬期間で開講時間が短くなったり、雪の積もる中でのサッカーなど、活動に制限がかかる中、体育館でサッカーを思う存分楽しんで欲しいという願いを大きなテーマに掲げました。

サッカー大会の最中は、プレーする楽しさだけでなく、リーダーやチームメイトとの関わりを楽しむ様子もみられ、大会が終わった後の表情を見ると、今回のサッカー大会でテーマとして掲げた願いは伝えられたのではないかと感じます。

私たちリーダーも、毎週のサッカースクールで関わっている子どもたちだけでなく、今回初めて関わる子どもたちとも一緒に楽しい時間を過ごすこ



とが出来ましたが、子どもたちへの声の掛け方や、試合以外の時間でのかかわり方など、もっともっと工夫することが出来た部分があるように感じています。サッカースクールは新年度を迎え、また1つ学年が上がった子どもたちと一緒に楽しい時間を過ごしていきたいと思えます。そして、そのために私たちリーダーが出来ることをさらに増やしていけるよう、1つ1つの活動を大切にしていきたいと感じられる大会となりました。

岩手大学 上野航大 (チャーシューリーダー)



第3回盛岡YMCA大会



3月21日(祝)いわて情報交流センターアイーナを会場に、第3回盛岡YMCA大会が行われました。当日は、ボランティアリーダー、維持会員、理事常議員、職員を合わせ約50名が参加をしました。



今年度の盛岡YMCA大会は、塩澤達俊とちぎYMCA総主事を講師に迎え、「ケアでつなぐ新しいYMCA像」と題した基調講演をいただきました。

YMCAが担っている、エッセンシャルワーカーとしての役割は、人工知能が目覚ましい進歩を見せている現代、そしてこれからの社会においても、人でなければ担うことが出来ないものである。そして、YMCAに関係する人や職員

員に与えられた大切な役割であるというお話をいただきました。

そして、全国YMCAで盛んに言われている、「ウエルビーイング」とは、直訳すると医学的・快樂的・持続的という3つの観点から定義づけられる「心身がよい状態」であることを指し、私たちにとって「心身がよい状態」とは何なのかを、グループ毎に伝えあうことを通し、学びを深めました。



その中で、周囲の人との関係の中にあるウエルビーイングは継続的に感じるものであり、それがYMCAの担っているエッセンシャルワーカーの役割の一つであることも伝えていただきました。

午後は、様々な年代に分かれグループ討議として、ケアとは何か、盛岡YMCAで出来ることは何か、どのようなYMCAでありたいかななどをテーマに分団協議を行いました。多種多様な経験を持ち、それぞれが違う立場でYMCAに集う方々が、自分たちの考えを伝えあい、理解しようとし、大きなテーマに向かって話し合いを進める中で、たくさんの気づきがありました。

2023年9月に創立40周年を迎える盛岡YMCAにとって、今までも、そしてこれからも大切にしていきたいこと、進むべき方向性のヒントが見えたような気がします。たくさんの気づきのきっかけをいただいた、塩澤とちぎYMCA総主事に感謝し、そしてYMCAに集う一人ひとりにとって、「ケア」「ウエルビーイング」という大切な価値を得られるよう、運動を進めていきたいと思ひます。



本部事務局 浅沼慧



フードバンク報告



今回もたくさんの方々にフードドライブ(食料支援)のご協力をいただきました。今回は、合計で80Kgを超える支援をいただき、心より感謝申し上げます。

盛岡YMCAでは、以前報告しておりました、発達に課題を抱えた子を対象としたサポートプログラムを、認定NPO法人accommon様と一緒に開催するなど、YMCAが行う定例プログラム(学童保育、サッカー、水泳、体育、野外活動、生涯学習)だけではなく、地域の諸団体と協働し、社会の課題解決に取り組むことをミッションの一つに掲げています。

認定NPO法人フードバンク岩手様も、社会の課題解決に取り組んでいらっしゃる団体として、YMCAも運動を共にしています。

YMCAだけで行う活動や支援にはどうしても限界があります。そういった中で、地域の諸団体と協働することで、少しでも力を大きくし、より多くの方々に支援の輪が広がることを祈っています。

今後も、皆様に社会の課題解決に向けた取り組みや、諸団体との協働に関わるご案内をさせていただくことがあるかと思ひます。一人でも多くの方々にご理解と賛同をいただき、ご協力をいただけますようお願い申し上げます。

本部事務局 浅沼慧

国際協力活動



2022年度は、ウクライナ緊急支援(5月1日～8月31日)、日本YMCA同盟を通じた支援活動への支援(11月1日～2月28日)、2023年2月6日に発生したトルコ・シリア大地震の被災者支援(3月)、それぞれの支援のための募金活動を実施致しました。多くの方からご協力を頂き、盛岡YMCAに寄せられた募金は総額で561,469円となりました。各プログラム会員の皆様を始め、盛岡YMCAに関わる多くの方から、たくさんの温かいご支援を頂き、心より感謝申し上げます。



また、盛岡南ドライビングスクール様、LiRiO様、日産プリウス岩手販売(株)本社中古センター様、天神町薬局様に、募金箱の設置のご協力を頂きました。ご協力感謝致します。

皆様から頂いた募金は、日本YMCA同盟を通じて、ウクライナ緊急支援、トルコ・シリア大震災被災者支援、また、ミャンマー(公衆衛生活動)、カンボジア(経済的な理由で、学校に通えない子どもたちへの支援活動)、タイ(児童保護活動)、ベトナム(小学校建設)、東エルサレム・ギリシャ(難民支援活動)、ネパール(収入を失った人の生活支援、災害支援)、アジアの東ティモール(子どもたちや若者の教育活動)への支援等に充てさせて頂きます。



国際協力募金活動に関わって下さったすべての皆様のご理解とご支援に、心より感謝申し上げます。

盛岡YMCA 国際協力担当 小川嘉文

銀の匙(さじ)

▼二つの作品

「銀の匙」という同じ題名で、2つの作品が世に出ています。一つは北海道の農業高校を舞台とした学園漫画。アニメにもなったので若いスタッフやリーダーの皆さんは知っている人も多いと思います。これは相当面白いです。

しかし、今回紹介するのはもう一つの方、中勘助による小説です。明治中頃における筆者の少年時代の生活が飾らない言葉で淡々と描かれています。300頁ほどの比較的短い小説なので、早い人なら3時間もあれば読み終えてしまうことでしょう。

▼奇跡の授業

ところが、この小説を3年間、じっくりと時間をかけて中学生と共に取り組んだ教師がいるのです。兵庫県にある灘中・灘高校の国語の教師、橋本武先生(2013年没)です。今でこそ灘高と言えば全国有数の超進学校ですが、橋本先生が赴任した当初は公立校のすべり止めの学校でした。そうした自己肯定感の低い(多分ですが...)生徒たちに、文庫本の『銀の匙』たった1冊をがっぶり四つに組ませたのでした。文中に出て来る言葉や、名称がわからなければ、生徒たちに調べさせたり、授業を進める中で、主人公の心情など理解できない部分があった場合は存命中の中勘助を訪ねていって筆者の思いを直接聞いたりしながら授業を進めていったそうです。こうしたプロセスを通して、生徒たちは、調べる力、考える力、自分の考えを伝える力、他者の考えに耳を傾ける力、そして何よりも日本語を味わう力を身につけていきました。そして、後にこの授業の受けた生徒の中から、東大総長、最高裁事務総長、弁護士会総長、小説家の遠藤周作などを輩出していくことになるのです。

▼作品自体の力

橋本先生の授業はもちろんですが、小説自体にも力があつたのだと思います。作中の無垢(むく)な子どもの世界に激しく心打たれ、まだ無名だった中勘助のこの作品を東京朝日新聞に連載するように推薦したのは夏目漱石でした。また、岩波文庫版の解説には、倫理学者の和辻哲郎が「描かれているのはなるほど子どもの世界に過ぎないが、しかしその表現しているのは深い人生の神秘だと言わざるを得ない」と語っています。

▼国語力について

YMCAが誕生したのは1844年。産業革命という、時代の大転換期の最中でした。そして、現在はそれ以来の世界史的な転換期にあると思います。こうした時代に必要なのは、考える力です。そしてこの考える力を支えるのは、母国語である日本語の力であると思うのです。

盛岡 YMCA 総主事 濱塚有史

(2023年3月新規会員) 敬称略

●2022年度 維持会員

魚住恵、杉田未来

最新情報はこちらでチェックできます! 「盛岡 YMCA」で検索ください。



ホームページ



facebook



instagram

盛岡YMCA2023年度年間予定

【サッカー大会】

- 6月11日(日) ファミリーサッカーフェスティバル
- 11月3日(祝) 秋のサッカー大会
- 3月10日(日) スプリングサッカー大会



【サマーキャンプ】

- 7月22日(土)～23日(日) 森の大自然満喫キャンプ
- 8月5日(土)～7日(日) 湖のキャンプ
- 8月9日(水)～12日(土) 島のキャンプ



【スキーキャンプ】

- 12月26日(火)～28日(木) 年末スキーキャンプ
- 1月6日(土)～8日(祝) 年始スキーキャンプ
- 2月4日(日)・18日(日) 日帰りスキー



【その他特別プログラム】

- 9月18日(祝) 盛岡YMCAインターナショナル・チャリティーラン
- 10月8日(日) 盛岡YMCA40周年記念式典
- 11月23日(祝) 国際協力街頭募金



【YMCA休館日】

8月13日(日)～16日(水)、12月30日(土)～1月3日(水)

その他各プログラムの日程については、別途担当よりご案内差し上げます。

表紙の写真から



3月21日(祝)第3回盛岡YMCA大会が開催されました。新型コロナウイルスの影響もあり、3年ぶりのリアル開催となりました。講師に全国YMCA総主事会議会長の塩澤達俊さん(とちぎYMCA総主事)をお迎えし、「ケアでつなぐ新しいYMCA像」について語り合いました。当日は、職員、役員、リーダー、ワイズメンズ、維持会員の方々など49名が集い活発に意見を交換しました。